
Geburt

604

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G e b u r t

【Nコード】

N 0 6 7 8 W

【作者名】

6 0 4

【あらすじ】

不定期です。プロットも糞ありません。感想を頂けるとうれしいです。続くといいです。

少し前のお話（前書き）

ヒロインとか死ねばいいのに。

少し前のお話

苦しいなんてものではない。

息ができない。石造りの天井が前衛的なオブジェに見えた。

まさに生き地獄である。

何度か意識を失いそうになったので正確ではないが、少なくとも二度は朝日を見た。

やっと生まれた。

ひとつの新たな生命が呼吸を始めるために産声をあげる。

望んだ出産ではなかったが、ほっとする。

少しまどろんでいると、部屋のドアが開く音が聞こえた。

男が見える。

それが誰か私の脳髓が認識した瞬間、感情が暴走した。

無意識に手が杖を探す。

「何を探しているんだ？お前は王宮には杖を持ち込めない決まりだつただろう。」

そうだった。無駄な行為を中止する。

嗚呼、このヒト型の何かを殺したい。

首を絞めたい。何でもいいから鋭利なもので一刺しでもいいから頭蓋の泉門に突き刺したい。

毒殺でもいい。ギロチンだったら大歓迎だ。

事故死でもないものか…

数千メートルから突き落としても生きていそうだ。

エアーカーターで切り刻みたい。ファイアーボールで脊髄まで燃やし尽くしたい。

魔法でも何でもいい、ころしたいんだ。

出産の影響で鈍い頭で思考していると、奴はまだ臍の緒の切られていない自分の子供を驚？みにした。

そして、目の高さまで持ち上げた。

おかげでまた腹に鈍痛が走る。ずるりと胎盤が体外に引きずり出される。

「何するの？」

蚊のような声でたずねる。

「いやな、嬰兒は体に良いと本で読んだのだ。ちょうど良いところ

に産声が聞こえてな、ためしてみるのだ。」

私が言葉の意味を理解する前に男の口は驚くほど開き新生児の頭部に噛み付く。

「決して旨い物ではないな。まあ良薬口に苦しとも言っからな。」

失神する前に見たのは器用に咀嚼しながら喋るジョゼフ1世、私の伯父の血みどろの顔だった。

少し前のお話（後書き）

ありがとうございます。

生まれたての子供なら泉門がつながっていないので、頑張れば可能だと思います。実際体にいいかは別として、今でも中国では嬰兒のスープなるものがあるそうです。

黒い快楽

今日もまた始まった。

真昼間から本当によくやるな。

ファラリス家の一族郎党が処刑されるらしい。

罪状はガリア王家に対しての謀反の疑いと執行人が述べている。

どうせでっち上げだろう。

この鋼鉄製の処刑台を中心とした広場はジョセフ一世が即位してすぐに作らせたものだ。

半径百メートルもの広場がほとんど民衆で埋め尽くされている。

この刑は必ず年の低い女から行われ家長は一番最後だ。嫌がらせである。

ファラリス家は家長のアルフレッドとその妻、息子が三人と娘が二人、先代の妻で八人である。

ガリアでは実に百三十もの罪を死刑の対象としている。その上処刑方法は週によって変化するのだ。

因みに八つ裂き、打ち首、釜茹で、縛り頸、火炙り、生き埋めの六つで、罪状によってはそのまま腐敗防止の為タールを塗り広場の周囲の逆十字の形の木材に打ち付けられ長年にわたって通行人の目を愉しませる。

受刑者の最後の断末魔を聴きに多くに人々がこの西の広場に肉切れを奪い合う野良犬の群れのように、われ先にと集まる。

刑が始まってしまったらしく、歓声が聞こえた。

今週は打ち首らしく、既に首がひとつ転がっている。

この執行人は随分ゆっくりきつたらしい。嗤ってやがる。

アルフレッドは威厳を保とうと押し黙っているが、息子と妻は泣き叫んでいる。

先代の妻はほうけた顔でぶつぶつと何かを呟いている。

そして罪人を民衆はにやにやと眺める。

断末魔と歓声が何度か続いた。

公開処刑は民衆の日常に娯楽として浸透している。

毎週月曜日の新聞にこの週の執行予定が掲載される。

ガリアでは重工業が発展し農地が牧羊地に変わり、土地と職を追われた平民は賃金労働者となる。

アパートの家賃、税金、食費。

これらは家族総出で働かないと賄えないものだった。

一週間に一回から多いときに毎日あるこの公開処刑は急速に近代化しその皺寄せがきている平民にとってよい息抜きになっている。

刑を愉しむ観客の濁った溝色の目は爛々と輝き頸部を刃渡り三十二センチの斧が断ち切るところを見逃すまいとしていた。

女は美しい長い髪は一括りにされ頸台に仰向けに寝かせられる。

執行人の一人が髪を抑え頸を切りやすいようにあごを上げさせる。

そして斧を振り下ろすのだった。

大体一回では断ち切ることはできない。

執行人は好んで鈍らの斧を使うからだ。酷いと顔面を叩き割ってしまふ。

残された広場には真っ赤な断頭台と胴と頭の分かれた五人と著しく顔面が損壊された死体が三つあった。

黒い快楽（後書き）

ミイラのお本を読みました。

おもしろかったです。

聖サミュエル教会の鐘（前書き）

昔はよかった。

聖サミュエル教会の鐘

ごーん ごーん

鐘が鳴った。

皆が走る。 西の広場へ。

鐘が鳴ったぞ 鐘が鳴ったぞ

農民は鋤を放り投げ、怠惰な貴族はやつと起き出し馬車を呼ぶ。労働者は腐った目を輝かせ警官はスリを追い駆けるのをやめ医者患者を放置する。

農夫が医者看護婦がメイドがウェイターが聖職者が薄汚れた子供が妊婦が樵が哲学者が貴族が平民がみんなみんな分け隔てなく走り出す。西の広場へ。

工場がとまる裁判もとまる喫茶店もとまる市の広場はがらがらだ。鐘が鳴るとすべてがとまる。

そして今日も誰かが死んだ。

聖サミュエル教会の鐘（後書き）

お母さん！隣のジャンがスリで打ち首だつてさ！

努力できるヒトは素晴らしいですね。人間として価値があります。
実にいいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0678w/>

Geburt

2011年11月17日03時03分発行